検印

第６学年　図画工作科学習指導案

令和２年９月１２日（土）
第２校時　　１Ｆ図工室
指導者　教諭　島野　修次

１　題材名　「墨をつかった 自分だけの世界」
【第６学年】Ａ表現（１）イ、（２）イ　〔共通事項〕（１）ア、イ　絵に表す活動

２　題材について

（１）児童の実態

本校の児童数は全校でわずか６９名の小規模校であり、本学級である第６学年においては６名の児童が在籍しており、校内で最も少人数の学年である。その分、人間関係も親密で「学習ができる」「運動ができる」「字が上手」「絵が上手い」といった友だちへの先入観が強い。「僕は絵が上手くない」と決めつけている児童も見受けられるため、本題材では自分らしい自由な発想を大切にする機会としたい。

また、アンケート結果によれば、絵を描くことが好きな児童の割合が多く、友だちの作品のよいところを見つけることが得意な児童ばかりである。その一方で、自分の作品のよいところを探すとなると一歩引いてしまう児童が多い。こうした児童に、自信をもってよいところを発表させるような授業を展開したい。さらに、この授業を通して絵を描くにあたり題名やテーマを絞らずに活動し、後から浮かんできたイメージを大切にする方法もあることに気付かせたい。

【図工についてのアンケート】（６名）

	はい	どちらかといえば はい	どちらかといえば いいえ	いいえ
1　絵を描くことは好きだ	５ （８３％）	１ （１７％）	０ （０％）	０ （０％）
2　絵を描くときにはテーマや題名を決めた方が描きやすい	３ （５０％）	２ （３３％）	１ （１７％）	０ （０％）
3　自分の描いた絵のよいところを見つけることができる	１ （１７％）	５ （８３％）	０ （０％）	０ （０％）
4　友だちの描いた絵のよいところを見つけることができる。	６ （１００％）	０ （０％）	０ （０％）	０ （０％）

（２）本題材を指導するに当たって

本題材では、墨や用具の特性を味わいながら画面に表すことを通して、心を開いて主体的に表現する力を培う絵の題材である。

墨といえば筆というイメージが強いが、身のまわりのさまざまなものを筆の代わりに用いたり、画用紙の代わりに小川町の誇りともいえる和紙を用いたりして、墨の濃淡や明暗、線を描く際のスピードを変化させることで、思いのままに白と黒の世界を表現させたい。

また、作品化をねらわずに自由に試すことでできる画面からイメージを広げて、表したいことを見つけたり、どのように主題を表していくか考えたりできるようにさせたい。

３　学習指導要領上の位置づけ

〔第５学年及び第６学年〕

Ａ表現

（１）表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

イ　絵に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題に表すかについて考えること。

（２）表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ　絵に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

〔共通事項〕

（１）「Ａ表現」の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

４　目標・〔共通事項〕及び評価規準　（※〔共通事項〕（１）ア　、イ　で示す。）

（１）目標

・墨で描くことで生まれる形や濃淡などの特徴を理解し、表し方を工夫する。　〈知識及び技能〉

・描きながらイメージを広げ、形・濃淡・太さ・かすれ・にじみといった組み合わせを試し、どのような画面を表していくか考える。

・画面を見ながらイメージを広げ、どのような題名にするのか考える。　〈思考力、判断力、表現力等〉

・墨で表すことに関心をもち、どんな工夫が考えられるか話し合ったり、用具の工夫や描く強さ・スピード・墨の濃淡に着目したりして、造形的な視点をもって活動を楽しもうとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

（２）本題材における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　墨の濃淡や形の表現から、動きや奥行き、バランスを理解している。 技　墨や筆、紙の特徴を生かして表し方を工夫している。	発　形や墨の濃淡、筆づかいなどをいろいろと試すことから、表したいことを考えている。 鑑　形や墨の濃淡、筆づかいなどの組み合わせを基に、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を感じ取ったり、考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。	態　墨による表現の楽しさを味わい、主体的に新たな表現に取り組もうとしている。

５　指導計画（２時間扱い）

（１）墨で表すことに関心をもち、用具や方法を工夫する視点で話し合う。　（１０分）

（２）考えた用具や方法の工夫を試しながら、思いのままに墨を使って表す。　（３０分）

（３）友だちと表現のよさを認め合い、表し方の特徴を理解し、さらに工夫して表す。　（３５分）

（４）気に入ったところに着目して題名をつける。　（１５分）

６　本時の学習（本時１／２）

（１）目　標

○用具や描き方の工夫といった組み合わせを試し、どのような画面を表していくか考える。

〈思考力、判断力、表現力等〉

○どんな工夫が考えられるか話し合い、用具の工夫や描く強さ・スピード・墨の濃淡に着目したりして、活動を楽しむ。　〈学びに向かう力、人間性等〉

（２）準　備

○教　師：新聞紙、墨汁、青墨、画仙紙、半紙、段ボール、割り箸、刷毛

○児　童：教科書、筆記用具、習字道具、絵の具バケツ・パレット

（３）展　開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿 「　」考えられる児童のつぶやき	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容　ア＿＿、イ＿＿）	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法】 ◎：十分に満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入（提案） 10分	1　この学習での見通しをもつ。 提案１：用具や方法の工夫について話し合おう。 ～どんな工夫が思いつくだろう？～	・学習の流れを掲示し、どのような学習をするのか見通しをもたせる。 ステップチャートを活用して、短時間で学習の見通しがもてるようにする。	
	2　参考作品を見て感じたことを話し合い、墨で表すことに関心をもつ。	○墨で描く白と黒の世界の自由さや、奥深さを感じさせ、表すことに関心をもたせる。 参考作品をみる	
	3　どんな工夫ができそうか、どんなイメージが浮かんだか話し合う。 指導計画作成の留意事項 （２）「主体的・対話的で深い学びの視点	○どんな工夫が考えられるかを話し合い、共有することで造形的な視点をもたせる。 話し合い ○用具の工夫、描く強さやスピード、墨の濃淡等に注目させる。	態：墨で表すことに関心をもち、話し合いに進んで参加している。【表情・行動観察・ワークシート】 ◎：進んで話し合いに参加し、自分の思いを伝えている。 ◆：一緒に考えながら活動し、対話を通して意欲を引き出す。 作品や題名から気づいたことを積極的に話し、友だちに伝えている。

展開（活動）25分	提案２：思い浮かんだ工夫を試し、好きな感じを見つけよう。		
	4　用具を選択し、墨を使って思い思いに表現方法を試す。 「速く動かすとかすれるね。」 「筆をつけたままだとにじむよ。」 「濃いと迫力があるな。」 「淡い色もきれいだね。」	○ダイナミックに表現できるよう、児童一人に対し、広いスペースを確保する。（一人一机） ○実際に用具を手にして、形・濃淡・太さ・かすれ・にじみといった組み合わせを試し、どのような画面を表していくかイメージを広げさせる。 試す 	発：用具や描き方といった工夫を試しながらイメージを広げ、どのような画面を表していくか考えている。【行動観察・対話・表現】 ◎：主体的かつ探求的に、色々な用具や方法を試しながら、墨による表現の仕方を考えている。 ◆：いくつかのアイデアを与えたり、みんなの表現を参考にしたりする。 形・濃淡・太さ・かすれ・にじみといった多くの表現方法を試してみる。
	5　試した工夫を友だちと見合い、共有する。 6　自分の工夫だけでなく、友だちの工夫も試すことで、工夫の幅を広げる。	○児童の思いや考えを聞き取りながら、表現の工夫を見取って励ましたり、友だちと表現を共有したりすることで、自信をもって取り組ませる。 ○自分の工夫を大切にしつつ、まだ試していない工夫に挑戦させ、新たな手法を体験させる。	工夫の共有
整理（まとめ）10分	7　６で試した表現を全員で見合い、表現の面白さを共有する。	○一人一人の表現の面白さが認め合えるように、できあがった用紙を掲示して鑑賞できるようにする。 新たに試した表現の紹介 	指導計画作成の留意事項（５）「共同してつくりだす活動」の視点
	8　本時を振り返り、次時の見通しをもつ。 振り返りのポイント示す。 １　わかったこと ２　気に入ったこと ３　友だちに言われてうれしかったこと	○教師が意図的に表現の面白さを紹介しながら、児童の工夫を発表させ、本時の振り返りにつなげていく。 ○次時の活動内容を伝え、活動への意欲を高めていく。	振り返りの記入

７　場の設定

【板書】

活動計画

第１時

用具・方法の工夫を考えよう

・工夫について話し合う

・試して好きな感じを見つける

第２時

自分の思いを表現しよう

・見つけた工夫を使って作品を仕上げる

・題名をつける

墨をつかった　自分だけの世界

用具・方法の工夫について話し合ってみよう。
～どんな工夫が思いつくだろう～

参考作品　参考作品

用具・方法の工夫を試し、
好きな感じを見つけよう

試作品　試作品　試作品　試作品　試作品　試作品

【教室の見取り図】

教卓
（準備物）

※　一人一机で実施

こちらで準備する用具箱の中身
・段ボール　・刷毛
・わりばしペン・青墨　・墨汁

用紙
選択場所

①コピー用紙

②画用紙

③和紙

机上に新聞紙を貼る　机上に新聞紙を貼る　机上に新聞紙を貼る

机上に新聞紙を貼る　机上に新聞紙を貼る　机上に新聞紙を貼る

「墨をつかった 自分だけの世界」　ワークシート①

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

やってみたい工夫

ふりかえり　（わかったこと　考えたこと　次につなげたいこと　等）

「墨をつかった 自分だけの世界」　ワークシート②

題名

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作品に込めた思い